第４回四国圏広域地方計画協議会
議事要旨

１．日時

平成２７年９月８日（火）１３：３０～１５：１５

２．場所

アルファあなぶきホール　多目的大会議室「玉藻」

３．議事

１）新たな国土形成計画（全国計画）について

２）新たな四国圏広域地方計画中間整理（素案）について

３）その他

主な発言内容

１）開会挨拶

千葉協議会会長、池内技監よりあいさつ

２）意見交換

議事１）、２）について国土交通省及び事務局から資料説明。その後、意見交換が行われた。各構成員等から出た主な意見は以下のとおり。

＜香川県＞

・１点に絞って申し上げたい。四国の新幹線の整備について、本素案において未だ未反映の状態になっている。これまで、四国各県、四経連では記載に関して要望してきた。圏域内における高速交通体系とともに、他圏域、大都市圏とを結ぶ交通ネットワークが不可欠である。

・北陸新幹線や北海道新幹線の開業、リニア中央新幹線の着工など全国計画にも盛り込まれているが、四国だけが新幹線の空白地帯であり、大きな後れをとっている。

・四国公共交通議員連盟が発足し、日本再生デザインにおいても新幹線は重要な社会インフラであり、リダンダンシーの観点からも必要との認識である。また、基礎調査を行い、瀬戸大橋を通り、四国内の県庁所在地を結ぶルートでＢ／Ｃが１を上回る結果となっている。

・四国鉄道活性化促進期成会による要望、四国知事会議、太田大臣への訪問、中四国

サミットでも緊急アピールを行っている。

・人口減少が進むなか、交流人口の拡大により観光振興を図るためにも新幹線の整備は欠かせない。災害に対する対応力の向上、さらに在来線の維持確保、新幹線がなければ在来線そのものも維持できなくなるのではないかという危機感がある。

・地方創生の観点からも新幹線の記述が抜け落ちているのは大変遺憾である。

・本計画は 10 年間のスパンの計画であるが、記述が無ければ 10 年間足踏みが続くということで、この計画の画竜点睛を欠き、盛り込んでいただけない場合には、賛成しかねるということをご了承願いたい。ぜひとも我々の心情をご理解いただき本省でのご議論をお願いしたい。

＜徳島県＞

・２点ございます。１点目は、本県のように災害が頻発する地域、自然災害のリスクの高い地域に、重点的に国土の強靭化に向けて進めるくだりを入れていただきたい。本県は、吉野川、那賀川の大きな河川を有し、洪水・渇水被害を繰り返し受けてきた。特に、那賀川は２年連続で大きな被害に見舞われている。地球温暖化による一層の自然現象の極端化が進む中、土砂災害も含め、自然災害の頻発する地域において、国土の強靭化を重点的に進めることを盛り込んでいただきたい。

・県南の県境部は、南海トラフの巨大地震により、高い津波、孤立化の懸念がある。リダンダンシーの観点から、海部道路等の高速道路の整備を進めることを盛り込んでいただきたい。LED、観光面、阿波尾鶏等の市場拡大に効果が期待される。

・２点目は、新幹線の記述を入れていただきたい。新幹線は、東京の一極集中を是正し、二眼レフ構造を実現する不可欠なインフラ。整備計画への格上げに向けた活動を進めており、全国知事会作成の日本再生デザインにも位置づけられており、他の圏域にも必要なインフラと認識されている。四国の様々な課題を一気に解決する四国新幹線について、しっかり記述していただきたい。

＜愛媛県＞

・広域プロジェクトの中に、本県が大変力を入れている自転車の関係を網羅していただきありがたい。他県と協力しながら事業展開に努めたい。

・今後、人口減少がますます加速すると見込まれる中、地方創生の観点からも新幹線の整備促進は不可欠であるため、新幹線の記述をお願いしたい。資料 2 の P.13、四国圏の減少率が最大であることをネガティブなポイントとして示されているが、今後 10 年の計画に新幹線が盛り込まれないと、この減少率がさらに大きくなることが予想され、ますます他圏域との差が拡大する恐れがあるため、何とか新幹線のフレーズを入れていただきたい。

＜高知県＞

・本県の意見を多数反映していただきありがたい。本県では人口ビジョンを盛り込んだ総合戦略を改定した。本計画は大変大きな後押しになる。本県の進める、地産外消、観光振興、移住促進、南海トラフ地震対策を始めとする国土強靭化、対流促進化を進めるためにはインフラ整備が欠かせない。

・８の字ネットワークの整備は最大の課題であると認識しているが、四国新幹線についてもご配慮をお願いしたい。資料 3 には鉄道の高速化を目指すとあるが、新幹線が含まれているのであれば分かるような表現に、含まれていないのであれば今後 10 年間何もしないことであり危惧している。今一度ご検討を願いたい。

＜愛媛県市長会＞

・四国への新幹線導入の記述を明記していただきたい。この広域地方計画自体は様々な計画を盛り込んだ素晴らしい計画であるが、鉄道のことがほとんど書かれていない。資料 2 の P.13、道路は入っていても鉄道のことに触れられていない。

・P.20 に鉄道の高速化とあるが、ここの一部分だけの記載である。鉄道の高速化と新幹線とは別問題と考える。

・新幹線の生みの親といわれる十河信二さんのゆかりの地である西条市で、四国鉄道活性化促進期成会により、「新幹線の実現を目指して」というシンポジウムを行った。指摘いただいたのが、基本計画を整備計画に押し上げないと絶対に進まないということである。四国の関係団体が意識を合わせて取り組んでいかないと実現しない。この素晴らしい計画のなかに新幹線導入という計画をぜひ入れていただきたい。

＜愛媛県町村会＞

・新幹線については右に同じである。

・広域観光周遊ルート、四国の特異性、美しさを内外にアピールすべきではないかということである。交通インフラの整備を進めることで、陸路を中心に広げることだと思うが、四国は、北は多島美の瀬戸内海、西はリアス式海岸の宇和海、南は雄大な太平洋、東は潮流の速い鳴門海峡、個性ある海に囲まれた島である。海から四国を遊覧するようなルートを取り入れていただければ、国内外に四国をアピールできるのではないか。

＜四国商工会議所連合会＞

・連合会も国に対して７項目の要望を上げ、そのうち６項目は本計画に盛り込まれているものと趣旨は同じである。少子化対策について婚活対策も従来から行っている。

・小規模企業の支援を行うことが使命であるが、政策にどのように具体的に反映されていくかを見ながら、地域の活性化に取り組みたい。

・新幹線について、資料を読ませていただいたが、鉄道の高速化を目指すとだけあり、

新幹線という表現はどこにも記載されていない。2025 年までの 10 年間を計画期間とし、国土のグランドデザイン 2050 に掲げる対流促進型国土を目指すなら、四国新幹線は極めて重要なインフラである。

・今、最も力を入れていることが、四国から提出される素案にさえ触れられていないことは奇異である。

＜中国四国地方環境事務所＞

・クールビスなど、平素より環境政策にご協力いただきありがたい。環境の視点は計画全体に多数配慮していただいている。

・１点だけコメントさせていただきたい。自然資源の利用と保全とのバランスの観点である。四国は日本最大の国立公園である瀬戸内海を始め、豊かな自然に恵まれており、これは四国の重要な地域資源であるという認識を共有。しかし、これらの地域資源の利用は、適切な保全とセットで考えるべきであり、利用と保全のバランスは重要。

・計画素案では、「地域資源の活用」など、利用の視点のみが強調されている箇所が見られる。全体の記述の流れを再検討いただきたい。

・最終的に廃棄物になるということで、空き家対策も重要と考えているが、計画素案本体には記述いただいている。

＜第六管区海上保安本部＞

・防災計画の観点は、地域から地区へと視点が移っている。災害応急対策を行う防災側としては、広域的な視点は大事であると考えている。安全安心の確保は大きな使命である。

・中国地方も含めた広域的なカバーする点も必要ではないかと考える。

・物資の輸送の観点からは海運も有効だと思われる。

＜第五管区海上保安本部＞

・徳島県と高知県を管轄としている。素案では南海トラフ地震の項目の中で、海上保安庁の体制の強化が記載されているが、これらを皆様の意見を聞きながら対応していきたい。

＜高松地方気象台＞

・南海トラフ地震、それによる津波、最近の雨の局地化、集中化、激甚化といった状況に対する自然災害の備えについて、素案のほうで記述されているため、特段意見ない。

＜大阪航空局＞

・特段のご意見はない。

・資料 2 の P.16 に取り組みの最初に南海トラフ地震への対応が書かれており、南海トラフ地震に近い場所として課題認識があらわれているものと考える。

・津波が心配されるが、東日本大震災では仙台空港が過去に例のない浸水被害があった。これを契機に、２年前に空港における具体の復旧計画の策定を行っており、四国では高知空港で策定している。訓練で復旧計画を確実なものにしていくなどにより本計画案の具体化に寄与したいと思っている。

＜四国経済産業局＞

・産業・経済面においても、四国地域については多様なポテンシャルがあると考える。素材産業、紙・パルプ、化学、非鉄金属、組立産業の割合が低いという指摘があったが造船業、他圏域との関係では中国地方の自動車産業との連携も今後考えていかなければならない。

・当局は、特に中小・中堅企業を育成して、地域経済を引っ張るような中核企業に押し上げていくという支援を人材面・情報面・資金面においてパッケージで行っていきたい。また、和紙や今治タオル等の地場産業や地域ビジネス、人口減少対策も含めながら、しっかり取り組んでいきたい。

・今後、四国地方産業競争力協議会等の議論を踏まえて、四国圏広域地方計画との有機的な連携を図っていきたい。

＜四国森林管理局＞

・四国の国土の１割を国有林として管理している。その森林の約６割が人工林であり、戦後植えてきた木材が利用期に達している。

・そうした川上側の状況に対して、川下側においては、大型製材工場の稼働、木質バイオマス発電所の建設・稼働が非常に多くなっている。新たな木材需要、これまでの製材需要のみならず、新しい技術の開発が進んでいる状況。森林・林業に関し、素案に記載していただいている。

・国有林としても、林業による成長産業化を支援していきたい。四国の豊富な森林資源をどう使っていくか、知恵を絞りながら進めていき、最終的には地方創生につなげたい。

・四国の山地は急峻かつ地質が脆弱である。「緑の国土強靭化」が盛り込まれており、治山事業の着実な実施などを通じて強靭化に努めたい。

＜中国四国農政局＞

・農林水産業・地域の活力創造プラン、食料・農業・農村基本計画などに基づき、農林水産業・農山漁村の所得の向上や地域の賑わいを取り戻すため、農業の構造改革、

国内外の新たな需要の取り込み等を通じて農業や食品産業の成長産業化を進める産業政策、農業の構造改革をするための農業・農村の多面的機能の発揮を進める地域政策を車の両輪として施策を展開している。

・とりわけ、地域経済における第１次産業のウエイトが高い四国地方では、これらを推進していくことが重要である。

・本計画素案においても、都市と農村の交流などによる農山漁村の活性化、農林水産業の強化にかかる記述を盛り込んでいる。

・農山漁村の活性化に関する施策については、日本型直接支払制度の推進により、地域の共同活動や営農活動等を支援し、農業・農村の多面的機能の維持・発揮を促進するとともに、規模拡大に取り組む農業者の担い手の負担軽減を図っている。また、農林水産業の強化に関する施策については、農業経営の法人化、担い手の育成・確保に向けた取組とともに農地の中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化、６次産業化、四国地方では高知県で進められている次世代施設園芸の振興、地理的表示保護制度を活用して農林水産物の高付加価値化を図っている。

・南海トラフ地震など自然災害への備えについては、国土強靭化基本計画に基づき、基幹的農業水利施設の耐震化、農業用ため池一斉点検を踏まえた対策、農村地域での洪水被害防止策などを行っている。

＜四国厚生支局＞

・個人的に四国 88 か所を見て回った。しまなみ海道も自転車で行った。四国の自然の美しさを感じる。

・高齢化は地域において差がある。四国では元気な高齢者を受け入れることによって地域の活性化とあるが、どういう移住政策を進めるのかについて考え方の整理必要。元気な高齢者をどう選ぶのか選べるのか、その辺を少し考えに入れた方が良い。

・介護療養型医療施設について記載されているが、どういう病床がいいのか、地域医療構想で各県ごとに検討することとなっている。利用者にとってベッドがいっぱいあることは良いが、効率的な整備を進めていただきたい。

＜四国財務局＞

・地域金融機関や政策金融機関は地方創生、地域活性化のための様々なツールを用意している。そうした金融機関に対して、計画を周知するとともに具体的な推進に向けた協力を強く求めていきたい。

・国有財産の活用を通じた、まちづくりや防災の取組についても計画に少しでもご協力をさせていただきたいと考えている。

・先日、財務事務次官が香川県に来たが、その時関係者の方から話を聞いており、四国新幹線に対する熱い思いを受け止めて本省に帰っているのではないかと思う。

＜四国管区警察局＞

・南海トラフ地震への対応力の強化、大規模災害の対応は喫緊の課題として捉え対策に取り組んでいる。

・四国は、重点受援圏に指定されている。

・中間整理については特段の意見はない。

＜四国運輸局＞

・新幹線の記述については、本省の方になかなか皆さんの思いが伝えられず、申し訳なく思っている。

・本省の方では、整備新幹線しか記述を載せないという整理がされている。本会議では強いご意見を受けているので、年度末の取りまとめに向けて、どのような形で、もう少し文章を修正できるか、さらに本省と協議を続けていきたい。

・観光ルートについても海の利用をご指摘いただいたが、海の観光資源の活用について、具体的に利用する計画が立てられているので表現も検討させていただきたい。

＜四国地方整備局＞

・四国の特徴として、自然災害のリスクへの備えが重要である。中でも、南海トラフ地震への備えが喫緊の課題であるが、災害対応は我々も一丁目一番地として掲げており、施設の耐震化を含めた防災・減災や四国８の字ネットワークの整備にもしっかりと取り組んでいきたい。

・四国地域の個性を活かしたこれからの発展、国土全体の中で四国がどのような位置付けにあるのか、役割を果たすのか、果たすべきなのかを示す必要がある。例えば、東九州自動車道、大分から四国を通過して関西へ抜けていく、こういった四国の役割を踏まえた圏域構造や圏域を超えた連携施策についても検討していきたい。

＜事務局＞

・自然災害のリスクの高い地域に重点的に対策を入れることについては必須のことであるため、書き振り等を調整させていただきたい。

・広域周遊ルートは陸だけでなくて海もということであったが、プロジェクトの３番目の中に盛り込んでいくべきものと考えている。具体的な提案をいただけたらありがたい。

・自然環境で、利用の側面ばかりの強調しているのではないかということであったが、そのようなことはなく、保全についても書き方を検討させていただきたい。

・災害対策は四国の中だけではなく、近隣も含めた体制が必要であることだが、まだ作業中である他圏域との連携を検討していく中で盛り込んでいきたい。

・移住政策をどう進めるか、今後の地域医療の供給をどのように行っていくかはどち

らも重い問題であり、広域地方計画の中でこうすべきといえるものではないため、関係部署との相談をさせていただきたい。

＜千葉会長＞

・四国の新幹線については４県始め、多くの構成員の皆様からぜひとも計画に入れてほしいとの意見をいただいたが、事務局側からは現時点では中間整理に取り込むことは難しいとのことであった。

・私も新幹線は四国の発展のためにぜひとも必要なインフラとして強く熱望するが、今回の中間整理では保留扱いとさせていただき、年明けの計画原案の最終とりまとめに向けてあらためて調整させていただきたい。

・したがって、中間整理素案については新幹線の記載は保留扱いとし、それ以外の点については必要な修正を事務局に一任し、本計画の充実を図るため、市町村計画提案の募集を行っていくことをご了承いただきたい。

＜構成員＞

・異議なし

以　上